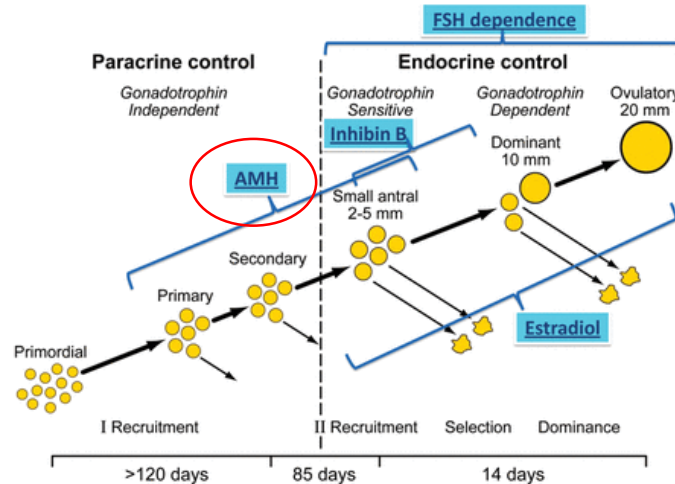


## AMH（抗ミュラー管ホルモン）について

AMHは主に胞状卵胞という、発育過程にある卵胞から分泌されるホルモンです。AMH検査は卵巣予備能(卵巣に残された卵子の目安)となり、「**卵巣年齢**」の**検査**とも言われて、近年生殖医療の分野で注目されています。

月経周期内の変動は少なく、どの時期でも検査可能です。



AMH値は年齢とともに減少する傾向にありますが、その数は非常にばらつきがあり、20代や30代の方でもAMHが1未満であること少なくありません。その場合は治療ができる期間が短い可能性があり、治療を急ぐ必要があります。このように、AMHは治療方針を決める大事な材料となる検査です。また体外受精においては、排卵誘発をした際の採卵数と相関すると言われておりますので、卵巣の刺激方法を決める際に参考になります。

ただし、AMHの数値が表すのはあくまでも卵子の数であって、その卵の質がいいか、順調に育つかは年齢と相関します。

つまり、AMH値が低い＝卵子の在庫が少ない

≠妊娠しにくい、卵子の質が良くない

ということです。

費用は自費で5000円です。

年齢(歳)	AMH (ng/ml)
27以下	5.77
28～29	5.58
30～31	5.23
32～33	4.61
34～35	3.65
36～37	3.02
38～39	2.40
40～41	1.72
42～43	1.33
44～45	0.81
46以上	0.53